＜エントリーシート＞ ※事務局記入欄 **No.：A - 17**	部門 平成 29 年度カリキュラム・マネジメント指導者養成研修	学校名・氏名 京都府総合教育センター 森山　隆仁
	活動名 カリ・マネ研修成果の普及 出前講座の実践と工夫・改善	

課題の設定：

京都府では全国と比して、カリキュラム・マネジメントが十分に機能しているとは言い難い現実がある（表１）。しかしながら、実際には教科等横断的な学習を取り入れた総合的な学習の時間の取組、評議員による学校評価を活用した PDCA など各学校で様々な実践が行われている。

そうしたデータと実践の乖離の原因の一つに「カリキュラム・マネジメントとは何か」という、理念の普及不足がある。逆に言えば、理念に対する理解が深まれば、これまでの実践をカリキュラム・マネジメントの視点で見直されるのではなかろうか。そして、そうした営みを通して、新しい学習指導要領で求められている「全ての教職員が取り組むカリキュラム・マネジメントの実現」が期待されると考え、本課題を設定した。

平成29年度全国学力・学習状況調査　学校質問紙（中学校）　※京都市除く

番号	質問事項		1	2	3	4
(28)	指導計画の作成に当たっては，各教科等の教育内容を相互の関係で捉え，学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で，その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか	府	9.4	60.4	29.2	1.0
		国	16.0	62.3	21.1	0.5
(29)	教育課程表（全体計画や年間指導計画等）について，各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成していますか	府	15.6	58.3	25.0	1.0
		国	21.2	56.3	21.6	0.9
(30)	生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき，教育課程を編成し，実施し，評価して改善を図る一連のＰＤＣＡサイクルを確立していますか	府	4.2	74.0	21.9	0.0
		国	25.3	62.5	12.0	0.2
(31)	指導計画の作成に当たっては，教育内容と，教育活動に必要な人的・物的資源等を，地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか	府	14.6	61.5	20.8	3.1
		国	17.7	56.9	24.6	0.8

１：よくしている　　３：あまりしていない
２：どちらかといえば、している　　４：していない

（表１）京都府の「カリキュラム・マネジメント」の実態

方針・計画：

「全ての教職員が取り組むカリキュラム・マネジメントの実現」のため、その理念を普及するには、以下の二つの方法が有効であると考え、出前講座のプログラムに取り入れた。

①各学校、教育委員会、教育局での出前講座でそれぞれの要望に応じた内容でカリキュラム・マネジメントの意義や概要について講義し、現場レベルでの共通理解を図る。
②「具体的に何から取り組めばよいかわからない」という声に応えるために作成したワークシートによる演習を通して、基本的な考え方を身に付け、全教職員がそれぞれの立場で取り組めるよう理解の深まりを図る。

また、出前講座を通して得た知見から、出前講座のプログラムそのものをカリキュラム・マネジメントし、一年間を通してより効果の高いものに改善する。

活動内容：

平成 29 年 12 月に「カリキュラム・マネジメント指導者養成研修」を受講した後、基本プログラムを作成。京都府総合教育センターの所員研修会で講義を行い、指導者養成研修での学びを普及するとともに、指導主事からいただいた意見をもとに基本プログラムの改善に取り組んだ。

平成 30 年 5 月から受付を開始した出前講座には、年間で 11 件の申し込みがあり、延べ 400 名を超える受講者を対象に「カリキュラム・マネジメント講座」を実施した。そして、それぞれの出前講座でのアンケートをもとにプログラムを評価し、講義中心から演習やワークショップを中心とするプログラムへと改善するとともに、複数のコンテンツを依頼元のニーズに応じて組み替える方法を取り入れた。

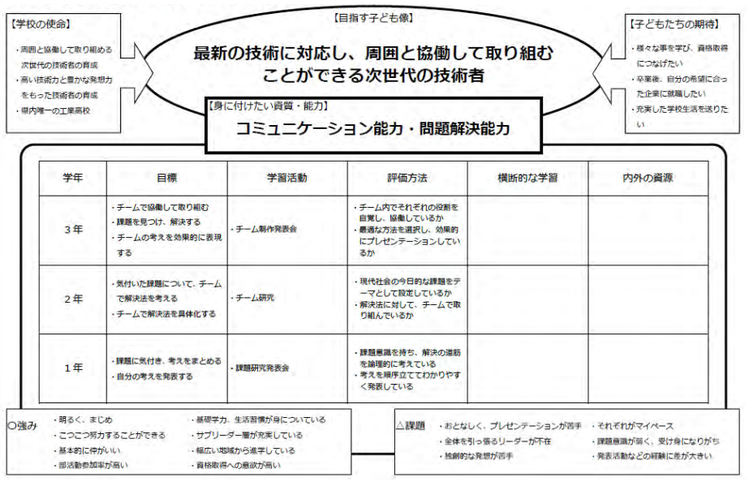
活動の成果：

出前講座についてはおおむね高い評価を得ることができ、各校の校内研修だけでなく、指導主事や事務職員、教務主任対象の研修会や小中学校の校種間連携を進めるための合同研修会など幅広い依頼をいただいた（表２）。

依頼元のニーズも「チーム学校の実現」「高等学校の新しい学習指導要領の要点」「集団づくりを活性化させる方法」といったように多様であったため、幅広いコンテンツを作成することができた。また、「現状の把握」「目標設定」とカリキュラムをつなげるための思考ツールとして「カリキュラム・マネジメント実現シート」（図１）を作成し、カリキュラム・マネジメントの理念について普及を図った。

	実施日	研修会	申込数（人）	内容満足度（%）	資料満足度（%）	役立ち感（%）
1	5/28	教育局指導主事研修会	20	90.9	100.0	100.0
2	5/30	小学校校内研修会	12	90.9	100.0	100.0
3	7/31	小学校校内研修会	23	100.0	100.0	100.0
4	8/1	教育局中堅教員研修会	14	100.0	90.0	100.0
5	8/20	幼保小中合同研修会	60	90.2	88.5	93.3
6	8/21	小中合同研修会	60	90.5	92.9	95.2
7	8/22	小中合同研修会	30	100.0	92.3	92.3
8	9/27	高等学校校内研修会	30	96.6	100.0	96.4
9	10/3	中学校校内研修会	15	92.3	92.3	100.0
10	10/30	教育局事務職員研修会	130	100.0	100.0	98･9
11	2/19	教育局教務主任研修会	120			
		合計・平均	514	95.6	95.6	97.1

（表２）出前講座「カリキュラム・マネジメント講座」実施状況



（図１）カリキュラム・マネジメント実現シート

受講者は出前講座の学びに対する活用意欲が高く、講座終了後に学年会議を行ったり、自身の活動を振り返ったりするなど、それぞれで変容を見ることができた。

【受講者の声から】
- 「実現シート」を作成するとなかなか埋まらない箇所があり、いかに視野が狭かったかがわかった。「つかさどる」の方法が少しつかめたように思った。チーム学校の実現にこの学びを生かしたい。（事務職員研修会）
- 教務主任の立場から「＝教育課程の編成」というイメージを持っていたが、日々の授業や活動を「点」ではなく「線」でつなぐという意識をどの先生も持つことが大切だという事が分かった。（小中学校合同研修会）
- 目標を具体的に設定することで評価しやすくなることが分かった。PDCA の”D”ばかりに目を向けず、評価や改善の視点を持って、２学期の目標を設定したサイクルをイメージできてよかった。（小学校校内研修）

アピールポイント（アイディアや工夫）：※3～5 つ程度の箇条書きしてください

- 本府の直面する課題に対応した課題の設定
- 出前講座の依頼元の要求に応じたコンテンツの作成
- カリキュラム・マネジメントによる研修プログラムの実施・評価・改善